

Book Review 36-4 むなしさ # 「むなしさ」の味わい方

『# 「むなしさ」の味わい方』（きたやまおさむ著）を読んでみた。

著者は、精神分析学を専門とする精神科医。1965年、京都府立医科大学在学中にフォーク・クルセダーズ結成して活躍したことで有名である。67年「帰って来たヨッパライ」でデビュー。71年「戦争を知らない子供たち」で日本レコード大賞作詞賞を受賞。

「むなしさ」とは、快適ではない、何もすることがない時間に付きまとい、そんな時間は少し前の時代にはたくさんあったが、現在はスマホを観て、音楽を聴いて、何もない時間を限りなくゼロにしている。便利さや快適さを追求することで「むなしさ」を感じなくさせているが、そこで失われていることがあるのではないかと著者は訴えている。自分に当てはめて反省。

本書を読んでから、移動しながらの音楽を今日一日止めて、「むなしさ」を味わってみた。早送りビデオを観て、斜めに本をたくさん読んでも、豊かな人生にはならないのかもしれない。他人からの情報収集に血眼になっている自分が見える。列車に乗っても本から目を離さない私と、一方で窓の外をジーとただ眺めている妻。どちらが充実した人生を送っているのか考えさせられた。

「むなしさ」を直視できなかつた例として、生き急いで自死した友人の加藤和彦氏のことにも触れている。